

メッセージアウトライン

ローマ 8 : 26~30 「御霊のとりなし」

[26]「御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、どのように祈ったらよいかわからないのですが、御霊ご自身が、言いようもない深いうめきによって、私たちのためにとりなししてくださいます」

信仰者は信仰を持ったがゆえの様々な戦いや苦しみがある。そのような時、意気消沈して祈ることさえできないことがある。しかしそのような時でも、信仰者のうちに住んでおられる御霊ご自身が言いようもない深いうめきによって、とりなしをしてくださるのである。

[27]「人間の心を探り窮める方は、御霊の思いが何かをよく知っておられます。なぜなら、御霊は、神のみこころに従って、聖徒のためにとりなしをしてくださるからです」

「人間の心を探り窮める方」とは神のこと。御霊のとりなしは言葉にあらわすことのできないような深いうめきであるにもかかわらず、神はその思うところ願うところを知っておられる。なぜなら御霊は神のみこころに従ってとりなしをなさるからである。「聖徒」とはイエス・キリストを救い主と信じて救われた者のこと。

パリサイ人と取税人の祈り→ルカ18:9~14

[28]「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています」

様々な悲しみや苦しみがあっても神はすべてそれらのことを働かせて益としてくださる。これが聖書の教えていることである。しかしそれはすべての人にではなく、神を愛する人々、神のご計画に従って召された人々、すなわち信仰者にである。

[29]「なぜなら、神は、あらかじめ知っておられる人々を、御子のかたちと同じ姿に定められたからです。それは、御子が多くの兄弟たちの中で長子となられるためです」

ここに神の一方的な選びのご計画があらわされている。

「あらかじめ知っておられる人々」とは神によって世の始まる前からあらかじめ選ばれ救いの恵みにあずかる者として知られている人々のこと。「御子のかたちと同じ姿に定められた」とは御子であるキリストと似た者とするためにあらかじめ選び、あらかじめ定められたという意味。私たちは全く神に選ばれ、救いに入れられるという価値のない者であるが、神のはかり知れない恵みと救いのご計画は、このような者をも救いのうちに入れることを良しとされたのである。そしてその目的はキリストを長子とする神の家族の完成のためであった。

[30]「神はあらかじめ定めた人々をさらに召し、召した人々をさらに義と認め、義と認められた人々にはさらに栄光をお与えになりました」

あらかじめ定められた人々は、福音を聞き、聖霊の働きによって救いに召される。そして神は召された人々を義と認められ、さらに栄光をお与えになった。過去形で書かれているのは未来において受ける完全な栄光がすでに信仰を持った時に揺るぎない事実として確証され、確約されたことを意味する。→エペソ1:3~6